

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成31年3月15日

事業所名 サンサポートさらだ

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である			○		
	2	職員の配置数は適切である	○				
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○			
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○				
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○				
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○				
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			○		第3者からの客観的な支援の評価の機会を取り入れ、支援の見直しへ繋げられるよう検討していく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している		○		月に1度、様々なテーマで研修会を行っている。	
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○				
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			職員各々の個性と特技を活動に活かせるように、各職員の意見を取り入れるようにしている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している		○		児童の自発性・協調性を育むため、児童たちでの活動の立案の機会を設けている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○				
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○				
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○				
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		○		サービス上、夕方～夜間にかけての提供になるため翌日に速やかに支援の振り返りの機会を設けている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○				
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○					
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○					
関係機関 や保護者 との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○				
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○				関係機関(学校)との連絡・情報共有を保護者を介して行う事が多いため、保護者への負担やタイムラグ等含め課題があるため、個人情報等への配慮は十分注意が必要だが連携の共有を図っていきたい。

関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○			保護者を介して基本的には情報共有を行うが、必要に応じて医師やその他の専門職からも情報提供を依頼することがある。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○				
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○				
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○				
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○				
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○				
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○				
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている			○	事業所としてペアレント・トレーニングなどの機会は設けられていない為、それらに通ずるセミナーなどがある際には、職員へ周知と参加を呼び掛けている。	事業所と保護者とが支援の相談を行い、必要に応じて保護者向けの研修・勉強会なども引き続きお知らせしていく。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○				
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている		○			
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している			○	日々の支援は基本的には、本児とその保護者と相談している。	保護者の方同士が様々な経験などから一緒に子どもの支援や育ちを考えられるように、顔を合わせられる機会・行事等から検討していきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している			○		
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			新たに会報誌を月に1度発行し、児童と保護者へ日々の活動等の情報提供の機会となる様に実施している。	
	35	個人情報に十分注意している	○				
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○				
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている			○	法人としての事業所イベントを定期開催し、地域の方にも事業の周知・理解に繋がるよう努めている。		
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している			○		
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている			○	法人内でマニュアル作成～周知、勉強会の開催を行っている。	法人内で勉強会の機会を設けているが、様々な職員が参加しやすい仕組み(実施時間帯、開催場所、実施規模、等)を見直していく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている			○		
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している			○		職員間でも子どもの身体拘束の必要な場面を現在は自覚できていない為、改めて現在の支援が身体拘束等に当てはまらないかを見直す機会の研修会などを検討していく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている			○	医師との連携は行っていないが、保護者と支援者、栄養士等で確認する機会を設けている	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			事業所内で委員会を設けて、発生の要因の検討や再発防止の対策等を検討している。	